

1 事業名 青少年教育指導者ミーティング

2 必要性

独立行政法人国立青少年教育振興機構の中期計画（平成23年6月）に「青少年をめぐる諸課題への円滑な対応を図るため、青少年教育に関する国内外の関係機関・団体等との連携を促進し、関係機関等とのネットワークを構築する」とある。ここで、青少年教育関係機関・団体等の全国的なネットワークづくりや地域のネットワークづくりを推進する方策が示されている。

本事業は、担当施設で取り組んでいる体験活動を参加者全員で体験することを通して、各施設のプログラム開発・実践に活かしたり、当施設が先導的モデル的事業等を実施した成果を公立青少年教育施設・青少年団体等に普及させたりすることを主たる目的とした事業である。将来的にも、国立青少年教育振興機構の施設として積極的に取り組むべき事業である。

3 趣旨

山陰地区の青少年教育施設・青少年教育団体に所属し、事業を企画・運営している担当者やその事業を支援しているボランティアスタッフが集まり、企画事業に関する情報・ノウハウなどの情報交換を行う中で、お互いの事業について理解し、企画運営に関する学びを深める。

4 協力

鳥取県教育委員会家庭・地域教育課、島根県教育庁社会教育課、島根大学教育学部附属教育支援センター、鳥取県立船上山少年自然の家、鳥取県立大山青年の家、島根県立青少年の家（サン・レイク）、島根県立少年自然の家

5 期日

- 《第1回》 平成25年5月27日（月）～平成25年5月28日（火）
（会場 島根県立青少年の家）
- 《第2回》 平成26年2月12日（火）～平成26年2月13日（水）
（会場 国立三瓶青少年交流の家）

6 参加者

(1) 募集対象・人数

山陰地区にある青少年教育施設等で青少年教育に携わり、事業の企画・運営に関わっている職員とボランティアスタッフ・20名

(2) 参加人数

- 《第1回》 21名（島根県 19名、鳥取県 2名）
- 《第2回》 6名（島根県 4名、鳥取県 2名）

7 参加経費

《第1回》

県内参加者 5,000 円

(施設設備使用料 1,030 円×1 日、食事代 990 円、夕食兼情報交換会費 2,980 円)

県外参加者 5,510 円

(施設設備使用料 1,540 円×1 日、食事代 990 円、夕食兼情報交換会費 2,980 円)

《第2回》

1,150 円 (食事代 950 円、シーツ代 200 円)

8 事業の内容

(1) 事業の特色

本事業が開催された経緯としては、平成 19 年度に島根県内の青少年教育施設（島根県立青少年の家、島根県立少年自然の家）職員から、「指導系の職員が集まって情報交換や研修を行う機会が欲しい」という要望が多くあった。そこで、当施設がコーディネーター役となって平成 20 年度に公立青少年教育施設・青少年団体等との連絡協力促進事業「青少年教育指導者ミーティング in SANBE」として当施設で、5 月と 2 月の年 2 回開催することとなった。実施後、参加者から「他施設の活動プログラムも体験したい」という意見が多く出た。それによって、平成 21 年度からは年 2 回開催のうち、1 回目は当施設以外の施設の持ち回りで、2 回目は当施設で開催することになった。さらに平成 22 年度からは、鳥取県内の青少年教育施設（鳥取県立船上山少年自然の家、鳥取県立大山青年の家）も含む、全 5 施設で開催することとなり、現在に至る。（平成 24 年度の第 2 回は、各施設とも事業や業務多忙のため参加者が集まらず、実施しても事業の成果が期待できないと判断したため中止とした。）

本事業は、各施設の事業担当者を中心として、大学の教員やボランティアにも募集をかけている。開催施設の活動プログラムを体験したり、各施設の事業の成果や指導方法等を協議したりする。また、参加者同士のワーキングネットワークを構築することや、参加者が新たな気づきや学びを生かして各施設において、今後の実践に生かすことをねらいとしている。

(2) プログラムデザインと企画のポイント

① プログラム提供の工夫

本事業は、参加者が開催施設の活動プログラムを体験し、各施設での事業の企画・運営や活動プログラムの参考になるようにと企画した。

第 1 回目は、宍道湖畔での「サバニ体験」を企画した。これは島根県立青少年の家が提供する活動プログラムの中で、最も人気がある。サバニは、エンジンのない小型艇であるのでオールで漕がないと前に進めない。そのため、クルー全員で大きな掛け声を出して、力を合わせる必要がある。サバニを含む、



サバニ体験の様子（第 1 回）

いわゆるカヌー体験は、島根県立少年自然の家、鳥取県立大山青年の家、鳥取県立船上山少年自然の家でも行っているが、指導・支援も異なり、体験することで、協力することの大切さや達成感、充実感も味わうことができると考え、実施することとした。また、「アイスブレイク」及び「アクティビティ」も企画した。ゲームを取り入れることで、初めて顔を合わす参加者同士がワーキングネットワークを構築しやすいと考え、実施することとした。

第2回目は、「SAP体験」を企画した。これは、PA（プロジェクトアドベンチャー）の手法を用いた、活動を通して身体を動かして学びながら、個の在り方や集団の在り方を考え、個と集団を発達へと導く三瓶独自の活動プログラムである。第1回目で参加者の中から、各施設の利用者に対してアイスブレイクの要素が強いプログラムは行っているが、仲間との人間関係づくりを意識したプログラムを研修したいという要望があった。これを受け、各施設が提供するゲームが利用者にとってよりよいものになるだろうと考え、SAPを実施することとした。



SAP 体験の様子（第2回）

②ミーティング（協議内容）の工夫

第1回では、プログラム相談について各施設における工夫や課題などの情報を提供し、それをグループで協議するよう企画した。情報に対して参加者同士が意見交換することによって、今後の実践に生かせる貴重な場となった。

第2回では、山陰地区にある青少年教育施設が連携をし、新しく事業を企画・立案する場として5施設関連事業の立案（ワークショップ）を企画した。ワークショップ形式で、各施設の特徴やアイデアを出し合った。それにより、実現可能な事業を企画・立案することができるとともに、今後の青少年教育施設についての役割についても深く考える場となった。

(3) 広報のポイント

山陰地区の5施設すべてから参加が得られるように、5施設で担当者を配置して、本事業の趣旨についての理解を図るとともに、日程や内容についての連絡を取りあった。また、多数の参加が得られるように青少年教育施設だけでなく、島根・鳥取両県の教育委員会や大学にも広報した。

(4) 日程表

≪第1回（会場 島根県立青少年の家）≫

5 月 27 日 (月)	13:30	13:45	16:45		17:00	18:00		19:00	22:00
	受付	・開講式 ・OR	[研修①] ・ねらいの共有 ・アイスブレイク ・ウォーミングアップ	[研修②] ・アクティ ビティ	休 憩	[ミーティング] ・プログラム等の 意見交換	入 浴	情報交換 会①	情報交換 会②

5 月 28 日 (火)	7:30	8:00	9:00	12:00		13:00	14:00	14:20
	退所 点検	朝 食	[プログラム体験] ・サバニ ○荒天時 ・ロープワーク（はしごづくり）	昼 食	[まとめ] ・ふりかえり ・来年度以降の展望		閉講式	解散

《第2回》（会場 国立三瓶青少年交流の家）

2 月 12 日 (水)	13:30	13:45	14:00	17:00	18:30	22:00	22:30
	受 付	・開講式 ・OR	[研修①] ・ねらいの共有 ・アイスブレイク	[研修②] ・SAP 体験	入浴 ・休憩	情報交換会	就 寝 準 備 就 寝

2 月 13 日 (木)	7:40	9:00	11:00	12:00	13:00	13:30
	朝 食 退 所 点 検	[研修③] ・5施設関連事業の立案 (ワークショップ)	発表	昼 食	[まとめ] ・ふりかえり ・来年度以降の展望	閉講式

(5) 運営のポイント

参加者同士のワーキングネットワークを構築しやすいように、各回ともアイスブレイクを取り入れた。また、身体を動かしながらコミュニケーションが図れるように、第1回はサバニ体験、第2回はSAP体験を取り入れた。さらに参加者同士が、運営する事業や指導方法等について気軽に情報交換し、かつ親睦が図れるように情報交換会を設定した。また、第2回では、ワークショップ形式で話し合いをしながら自然な雰囲気、情報交換が図れるように運営した。



アイスブレイクの様子(第1回)

(6) 安全管理のポイント

第1回は、宍道湖畔でのサバニ体験の予定であったが、天候が悪く、安全に実施できるかどうか直前まで島根県立青年の家の職員と打ち合わせを行った。幸い天候が回復し、風速も可能範囲内に治まり、無事に実施できた。

第2回は、SAP体験において、アクティビティをする上で、参加者との事前の打ち合わせや健康状態を把握して、計画・実行した。



プログラム相談の様子(第1回)

(7) アンケートの満足度・おもな記述

《第1回》満足度(参加者21名)

満足13名(62%) やや満足8名(38%) やや不満0名(0%) 不満0名(0%)

- ・情報交換から、さらに何を協議していくかを見通したミーティングになっていたと思います。
- ・人間関係づくり及び施設の特徴を出せたプログラムであった。
- ・他施設の方とのネットワークができたので、これを今後生かしていきたい。新しい考えや方法を学ぶ上で、また日々の支援でのモチベーションを高める上で、たいへんよい刺激になった。
- ・最後のまとめの時間がすごく良かった。他施設の様子を聞きつつ、自分の施設でどうすべきか考えることができた。また、所長さんの話をきっかけに、大事な部分、深い部分が話題となり

大変良かったが、そのための時間としては短かったのが残念だった。

《第2回》満足度（参加者6名）

満足6名（100%） やや満足0名（0%） やや不満0名（0%） 不満0名（0%）

- ・ S A Pの理論について実体験に基づく貴重なお話が聞けて大変参考になりました。参加された職員の方々との意見交換がとても楽しく今後に生かせそうです。自己啓発になりました。次、何をするか具体的にしていきたいものです。三瓶の皆様大変お世話になりました。
- ・ これまでの認識が大きく変わるお話が聞けて、大変勉強になりました。理論的な基盤をもつことにある意味“うえていた”ので、ありがたかったです。これから所に帰って、具体化してみたい欲求が高まりました。また、定期的なミーティング機会も大事にしたいと思いました。2日間ありがとうございました。

10 成果と今後の課題

＜成果＞

①ワーキングネットワークの構築

アイスブレイクをはじめ、活動プログラムや協議、情報交換会等を通して、参加者同士の親交を深めることができた。また、各施設の活動プログラムについての情報提供や施設の取り組み等について相互理解することができ、今後、連携事業をする上で必要なワーキングネットワークを構築することができた。



ワークショップの様子（第2回）

②連携事業の方向性

第2回の「5施設関連事業の立案（ワークショップ）」では、連携事業に関する企画・運営の具体的な案が出された。それをもとに来年度以降、さらに連携を密にし、新しい事業の実現に向けて動いていきたい。これにより、ますます施設間同士のつながりが強くなるであろうと考える。

＜課題＞

平成24年度の第2回は、2月を予定していた。しかし各施設の事業の日程が重なり、参加者が集まらずやむを得ず中止とした。また、第1回の開催施設の持ち回りが、「国立三瓶青少年交流の家→鳥取県立船上山少年自然の家→島根県立少年自然の家→鳥取県立大山青年の家→島根県立青少年の家（サン・レイク）」と対象5施設を一巡した。これらを受けて、今後の開催について、各施設に意見を求め、結果、年1回の開催希望が多く、さらに冬季は出席者数が限られることなどから、平成26年度から年1回5～6月に行うという方向性を得た。しかし、年1回になったことで、早期に、各施設間で連絡調整や意思疎通を図り、各施設のより多くの指導系職員が参加可能な期日、そして充実した活動内容を企画運営することが何よりも重要となった。

11 普及計画・普及実績

山陰地方の青少年教育施設の指導系職員に対し、直接、開催施設の活動プログラムなどについて広報することができた。

成果については当施設ホームページで紹介する。また、事業報告書を作成し、青少年教育施設、青少年教育関係機関等に送付し成果の普及を図る。

（担当 今井 隆雄）